

テーマセッション1 「国勢調査の利用と人口統計のあり方」

組織者：加藤久和（明治大学）

座長：川崎茂（総務省統計局）

討論者候補：大林千一、阿藤 誠

報告者：公募

趣旨：2010年に実施された国勢調査の結果によれば、わが国の総人口は5年前と比べわずかながら増加した。しかしながら今後本格的な人口減少社会の到来は確実であり、人口・世帯等の動向は経済・社会等々にさまざまな影響をもたらすことが考えられる。その影響などを見通すためには、今回の国勢調査の結果はきわめて重要な情報を与える。一方、年齢不詳人口等の増加など、国勢調査のあり方や実施方法などに関する課題も多い。将来の青写真を描くべき国勢調査の精確性を高め、かつ国民の信頼を得て、情報基盤としての位置づけを高めていくことは不可欠である。

本セッションでは、こうした視点から、1) 今回の国勢調査から将来の経済社会像を描く上でどのような知見が得られたのか、2) 国勢調査が将来の情報基盤としてさらに信頼を得るには、どのような課題や改善策があるのか、3) 住民基本台帳に基づく人口など他の人口統計との連携はいかにあるべきか、といった点に関する研究報告を求めるものである。なお、本セッションの趣旨としては、1) に関して、国勢調査の結果を単に紹介する報告にとどまらず、2)、3) の論点との有機的な連携を求める。具体的な例として（実際にこうした報告を求めるものではないが）不詳人口の年齢別推計の違いが若年層の未婚率等に及ぼす影響、あるいは外国人の捕捉状況と推計人口の遡及改訂への影響などがある。

テーマセッション2 「2000年代の結婚・出生」

Marriage and childbearing in the 2000s

組織者：岩澤美帆

座長：未定

討論者：未定

報告者：公募

趣旨：1990年代以降、少子化に対する関心が高まる中で、晩婚化や少子化の要因解明や見直し、政策効果測定を目的とした数多くの調査プロジェクトが企画され、成果がまとめられてきた。ただし、少子化が認識されはじめた1990年代と、少子化が一層進んだ2000年

代とでは、経済事情、意識、政策なども異なっている。2000年代までの研究で何が分かったのか、1990年代と比べて事態は継続しているのか、変化してきているのか、国際的な潮流と比較して、日本に特徴的なことは何なのかを研究者間で共有することは、2010年代を迎えるにあたって重要なステップになると思われる。このテーマセッションでは、主に2000年代の結婚・出生行動の実態を把握できる調査データ、統計を用いた研究成果を募りたい。報告者には可能な限り、時代・世代変化、理論的仮説の妥当性、国際比較のいずれかに触れていただき、今日の結婚・出生の分析視角の整理に貢献していただく。

テーマセッション3 「人類生態学と人口学」

組織者：小西祥子（東京大学）

座長：梅崎昌裕（東京大学）

討論者：金子隆一（国立社会保障・人口問題研究所）

趣旨：人類生態学とは、フィールド調査や実験科学に基づいて、集団としての人が環境にどのように適応しながら生存を続けているかを探求する学問である。集団としての人を研究対象とすることから、その方法と論理は人口学と密接に関連している。本セッションは、人類生態学の研究で用いられる方法について、その概念と応用事例についての発表から構成される。具体的には以下の4つのテーマについての報告を想定している。1) 精度の高い人口データが存在しない集団において、聞き取りやシミュレーションモデルによって過去の人口動態を再構築する小集団人口学、2) 人口学的現象の人類学的理解を目指す人口人類学的民族誌、3) 環境化学物質が再生産機能に及ぼす影響を疫学的手法によって解析する生殖疫学 (Reproductive Epidemiology)、4) バイオマーカーを用いて健康状態を定量的に評価する生物人口学 (Biodemography)。これらの報告は、人口学的データの乏しい集団を対象としたり、出生や死亡の背景にある生物学的要因に着目したりする点で、従来の人口学とは異なる視点を提供する。